

2014年
10月
No.192

さざなみ

〒520-2141
大津市大江6丁目23-24
浦谷貞子 気付
さざなみネット
(金融労連・全国金融産業労働組合滋賀分会)
TEL・FAX 077-545-5154

金融労連近畿地協第9回定期大会

当たり前前に人間らしく働ける職場を

10月25日、金融労連近畿地協第9回定期大会が、ホテルビナリオ嵯峨嵐山で開かれ、代議員・役員・オブザーバー・来賓34人（委任状2人含む）が集まりました。さざなみネットからは山崎書記長が参加しました。

大会は「近畿地協第9回定期大会日程」（下記）にもとづいて行われ、岡野議長は「安倍政権の『女性の活躍』は、『企業が世界で1番活躍しやすい国をつくる』ための『成長戦略』に、女性を活用し、利用しようとするものである。また、『雇用・労働法制改革』を大々的に進めているが、働くルールを全面破壊であり、日本中をブラック企業にしかねない大改悪である。

当たり前前に人間らしく働ける職場をつくる組合活動が求められている。地域金融機関として生きる道を経営にも進言するなど、ものが言える組合が求められている。しっかり議論し運動を進めていこう」と挨拶しました。

京都総評・京商連・金融労連から情勢をふまえた激励のあいさつを受けた後、議案が阿部事務局長と伊藤事務局次長から提案され、単組・支部・分会から7人が発言、さざなみネットからは山崎書記長が右記のとおり発言しました。採決の結果全議案とも満場一致で採択されました。

その後、新年度の役員選挙が行われ、次の方々が選任されました。



挨拶をする岡野議長

近畿地協新役員（敬称略）

- (議長) 岡野 展子 <再>
- (副議長) 車谷 薫 <再> 福井 悦雄 <再>
松島 照男 <再> 森 廉始 <再>
- (事務局長) 阿部 正巳 <再>
- (事務局次長) 伊藤 宗孝 <再>

山崎さざなみネット書記長の発言（概要）

職場では不満が渦巻いている。その原因を知るために、業界団体の情報や決算・機関誌などを分析し、機関会議で討議、活用しています。

次の決算分析資料を配布し説明しました。（従業員数、人件費、平均年間給与、収益、自己資本、内部留保、経費、資金調達、資金運用、預かり資産など）



発言をする山崎書記長

近畿地協第9回定期大会日程

- 議長団選出・大会役員選出
- 議長あいさつ・来賓あいさつ
- 祝電・メッセージ紹介・大会役員報告
- 第1号議案
- たたかいの総括とすすめ方提案
- 討論・採決
- 第2号議案 決算報告・会計監査報告
- 討論・採決
- 第3号議案 予算(案)提案
- 討論・採決
- 役員選挙 資格審査委員会報告
- 投票・投票結果発表
- スローガン採択・新旧役員あいさつ
- 閉会・第1回幹事会・交流会



大 菊 岩波 美智子さん 画

ちぎんの会第3回総会 80人が集う 元気に各地でがんばっておられる姿に感激、再会を誓う

ちぎんの会は10月16日琵琶湖グランドホテルにおいて、第3回総会を開催、青森から大分までの各地から80人が集まりました。さざなみネットからは6人が参加、現地実行委員としてそれぞれの役割を果たしました。

総会は和田会長があいさつ、ちぎんの会・各団体の報告、役員改選があり、川端俊英同朋大



挨拶をする和田会長

学名誉教授が「若き日の島崎藤村と近江」の演題で記念講演をされました。



ミシガンホールでランチ

夕方からの交流会は仰木太鼓でオープニング、乾杯の後、団体紹介、カラオケ、詩吟、日舞披露など楽しく歓談しました。

最後に「地銀連の歌」「びわこ周航の歌」を合唱。これからの健康、奮闘を誓い合いました。

17日は、三井寺を拝観、ミシガンクルーズで昼食し、大津駅と京都駅までバス車中観光をしました。最高齢者は86歳、参加のみなさん、お元気に各地で頑張っておられる姿がうかがえ感激しました。

9条の会・革新懇共催で憲法講演会 自発的市民運動型の時代

「真宗大谷派9条の会会長浜」「9条の会・いか」「9条の会・こほく」「9条の会・びわ」「長浜革新懇」は共催で、10月18日長浜市の臨湖で憲法講演会を開きました。全国革新懇代表世話人・関西大学名誉教授鱒坂真さんが「安倍政権の右翼的暴走をいかに食い止めるかー集团的自衛権などをめぐって」と題し、講演されました。「安倍暴走を支えてきたのは防衛官僚ではなく外務官僚」「国民の反撃で思うように進んでいない」「新しい共同が広がり『自発的市民運動型の時代』だと、今後の闘いの展望を語られました。私たちがのんびり次第で安倍政権を短期に終わらせることができると確信しました。



記念講演をする鱒坂真さん

ひひろ

「ちひろの生まれた家」記念館

9月23日秋分の日、父の出身地であるお寺にお詣りに行く途中、武生にある「ちひろの生まれた家」記念館（左）に寄りました。

いわさきちひろは、1918年12月15日、雪の降りしきる朝、この家で生まれました。『赤い毛糸帽の女の子』の絵（右）は『ゆきのひのたんじょうび』という絵本の中にあり、最も人気の高い作品です。母文江から、しんしんと雪の降り積もる日に生まれたと聞かされていた「ちひろ」は、この絵本の中で「私が生まれたとき、雪が降っていたってほんど？」と絵本の主人公のちいちゃん（ちひろの愛称）に言わせています。



お母さんの岩崎文江は長野県松本市の出身。奈良女子高等師範学校（現在の奈良女子大）を卒業して、武生実科高等女学校の教師として武生に赴任。1918年、文江は、長野県出身の建築技師 倉科正勝と結婚。その後も単身、武生の地で教師を続けていました。9月、赤ちゃんができていたから、女学校の寄宿舎からこの家に移りました。ちひろが生まれ、翌年3学期を終えると、ちひろを抱いた文江は、6年間住んだ武生の地を去りました。

ちひろは戦後、絵本画家となり、子どもの幸せと平和を願った約9000点の絵を残しました。

居間にかかった「ちひろカレンダー」のほのぼのとした愛らしい絵を見て、子どもが小さかった頃、自分の子どもの頃、孫のことなどを思い出し、みんなの幸せと平和を願っています。（山崎）

